

第4回 新庄新高校（仮称）・新庄神室産業高校 教育基本計画策定委員会
記録（概要）

- 1 日時 令和4年1月31日（月）10：00～12：00
- 2 会場 （メイン会場）県庁1001会議室
（リモート会場）山形大学、新庄市教育委員会、新庄市立新庄中学校、
県立新庄南高等学校、県立新庄神室産業高等学校
- 3 参加者 委員長（座長）、委員9名、事務局5名 ※委員1名欠席
- 4 内容

- 1 県教育委員会あいさつ
- 2 報告
 - (1) 第3回教育基本計画策定委員会の記録（概要）について
 - (2) その他
- 3 協議
 - (1) 新庄新高校（仮称）教育基本計画（案）について
 - ① 基本理念
 - ② 開校予定年度と入学定員等
 - ③ 教育課程
 - ④ 移行期の対応
 - ⑤ 施設整備計画
 - ⑥ 開校に向けた準備組織及びスケジュール
 - (2) 新庄神室産業高校 教育基本計画（案）について
 - ① 基本理念
 - ② 商業科設置予定年度と入学定員等
 - ③ 学科の目標及び教育課程
 - ④ 移行期の対応
 - ⑤ 施設整備計画
 - ⑥ 商業科設置に向けた準備組織及びスケジュール
 - ⑦ 用語解説
 - (3) その他
- 4 連絡
 - (1) 今後の新庄新高校（仮称）開校及び新庄神室産業高校商業科設置に向けた準備について
 - (2) その他

5 発言要旨

- 2 報告 事務局長より説明
- (1) 第3回教育基本計画策定委員会の記録（概要）について
質問等なし。
- 3 協議 (1) 新庄新高校（仮称）作業部会長 及び 事務局長
(2) 新庄神室産業高校作業部会長 及び 事務局長 より提案
- (1) 新庄新高校（仮称）教育基本計画（案）について
- ① 基本理念
質問意見等なし。原案の通り承認された。

② 開校予定年度と入学定員等

質問意見等なし。原案の通り承認された。

③ 教育課程

(委員)

国際探究科らしい学びとして、海外への修学旅行の他に、姉妹校との交換留学などが考えられるが、現時点で考えている具体的な学びを教えてください。

庄内総合高校の定時制は総合学科ということで、産業分野を学べる系列があり、子どもたちの学びの選択肢に幅がある。新庄新高校（仮称）の定時制は、普通科であり、産業分野の学びを設置するのは難しいと思うが、子どもの興味・関心に対応した選択に広がりをもたせる教育課程上の工夫について聞きたい。

(部会長)

国際探究科は、先行して本県では3校に設置されている。3校とも名称は同じであるが、学習内容に関しては、各学校が特色ある教育課程を編成する中で、必然的に差異が生じている。新庄新高校（仮称）は、次年度以降に具体的な教育課程を編成していく中で、オンラインによる英語発表会などの他校の実践例を踏まえながら、細かな部分を決めていくことになる。また、姉妹校に関しても、具体的な話ができる段階ではなく、今後検討していくことになる。

新庄新高校（仮称）の定時制は普通科であり、産業分野の教育は、庄内総合高校の定時制より少なくなることは否めない。歴史的に見ても普通科志向の強い新庄北高校定時制であるが、今後の教育課程の見直しの中では、産業教育の視点も必要であると感じた。

(委員)

「個別最適な学び」とは、子どもたちが自身で選び勉強していくことが趣旨である。趣旨の意味を強調するのであれば、全日制及び定時制の教育内容の特色にある「個々の特性に合わせた学びを展開します」という表現を、「個々の特性に合わせた主体的な学びを展開します」など、生徒側が選んで考えていくことを明確にした表現にする必要がある。教育課程を考えていく上で、「個別最適な学び」の趣旨を踏まえて進めてほしい。

STEAM 教育の中の Arts の趣旨としては、芸術的な感性やデザインの観点も含まれている。脚注のリベラルアーツ・教養という説明になると、芸術的な意味合いが拡散してしまう。リベラルアーツ・教養という説明で間違いはないため、変える必要はないが、教育課程編成の議論では、ぜひ芸術的な部分での直感や創造性を大切にしてほしい。

(部会長)

教育内容の特色における文言については、御意見を踏まえ検討していく。

新庄新高校（仮称）としても、芸術教育の充実・継承を目指しており、STEAM 教育の Arts には、芸術的な意味合いも含むと捉えている。このことを踏まえ、文言の表現については、今後検討していく。

(委員)

平成 30 年度に県内 3 校に探究科が設置された時のワクワク感や期待感が、同じように新庄新高校（仮称）にも起きることはありがたい。名称上、探究科設置の他校との差別化は難しいかもしれないが、部会長の発言からは期待と広がりを感じる。これから細部について検討していくことになると思うが、様々な角度から考えてほしい。定時制が、夜間から昼間に移行すると、生徒の層が変わってくるため、学び直し、中学校時代に大きな人数の中で学べなかったなど、学習履歴が今以上に多岐

にわたると想定される。どのような対応となるのか、今後検討し決定したことについては、その都度周知願いたい。

(委員長)

いただいた御意見等を踏まえ検討し、今後の文言の修正に加えていく。

- ④ 移行期の対応、⑤ 施設整備計画、⑥ 開校に向けた準備組織及びスケジュール
質問意見等なし。原案の通り承認された。

(2) 新庄神室産業高校教育基本計画（案）について

① 基本理念

質問意見等なし。原案の通り承認された。

② 商業科設置予定年度と入学定員等

質問意見等なし。原案の通り承認された。

③ 学科の目標及び教育課程

質問意見等なし。原案の通り承認された。

④ 移行期の対応、⑤ 施設整備計画、

⑥ 商業科設置に向けた準備組織及びスケジュール

質問意見等なし。原案の通り承認された。

⑦ 用語解説

質問意見等なし。原案の通り承認された。

※協議全体を通して

(委員)

最上地区の中高校長の連絡協議会において、高校の魅力発信として、中学校2年生の段階で、高校における学習内容を知る機会が必要ではないか、という話になった。中学校長会から最上地区内の4校の高校長に、来年度の中学2年生を対象にした高校の学習内容を知る機会を設けることができないか、依頼しているところだ。最上地区に新しい学校ができることを、子どもたちにしっかりと見つめてもらい、保護者にもご理解いただくことで、最上地区にできる新しい学校を盛り上げていくのではないかと考えている。

(委員長)

中学生に高校の魅力伝える場面を設けてほしいという思いをいただいた。学校を知ってもらう、様々な学びがあるということ子どもたちに知ってもらうことは大事であるので、県教育委員会としてもどんなことができるのか考えていく。

(委員)

来年度の整備委員会では、さらに具体的に細部を決めていくことになると思うが、新しい高校に、中学生がぜひ入学したいと思えるような教育課程を編成してほしい。高校生による地域密着型の活動に感謝する。その活動を新しい高校の教育活動の中で深化・発展させてほしい。新庄神室産業高校の生徒発案のラ・フランスパンがローソンで発売されたように、自分の考えたことが地域で生かされていると実感できる体験を、新しい高校の教育活動にも期待したい。

(委員)

オンライン活用により大学との連携を強めながら、高校生が未来の社会に接続できる学びを進めてほしい。大学入学共通テストにおいても「情報Ⅰ」の科目が必修化されるように、AI や ICT の活用は、これからの生徒にとって生きていく時に、息をするように、使ったり表現したりできるものになる必要がある。これからの社会を生きていくために必要なものを示し、生徒自身がその活用にごたえを感じるような学習活動や内容を高校の教育活動の中に位置付けることは、中学生にとって

魅力となる。

(委員)

令和7年は、新庄城が築城されて新庄藩が開府し、治政を始めた400年の記念の年になり、新庄新高校（仮称）の開校や新庄神室産業高校に商業科が設置される時期は、新庄市にとって大きな歴史の節目に当たる年である。新庄市としても、令和7年に向けて開府400年を記念する実行委員会を立ち上げた。新庄新高校（仮称）の基本理念の一つに「豊かな心と郷土愛を基盤とした、可能性への挑戦」があり、「郷土愛」という意味では、令和8年度に開校ということで、新庄市の大きな歴史の節目とともに、新庄新高校（仮称）が歩むことになる。

(事務局長)

今後は、事務局で文言の修正や最終確認を行い、3月中旬から下旬を目処に「教育基本計画」を完成させたいと考えている。修正内容について、最終的な判断は、委員長に御一任いただきたいがどうか。

(委員長)

異議が無いことから、事務局長の提案のとおり進めることとする。

(3) その他 ※これまでの議論の感想や今後の準備に期待することなど

(委員)

今、新しい高校をつくることは、大事なことである。今年の元日の日本経済新聞に日本の社会についての記事が載っていた。国民の労働生産性が落ち込む中で、新しい社会を担う人たちがどのように新しいものを創り出していくかが大事であるという内容であった。中学生、高校生が新しい未来を支え生きていけるように、開校に向けたプロセスを進めてほしい。

(委員)

新庄市教育委員会の立場として、高校段階で子どもたちの可能性を引き出すためにも、義務教育段階で、子どもたちに学力だけでなく興味や目標、特技などを見つけたり、自覚させたりしていく教育を充実していく必要があると改めて感じた。最上地区の高校が、最上地区以外の県内や県外の高校生からも注目され、選ばれる高校になるよう支えていきたい。

(委員)

新庄新高校（仮称）の開校と新庄神室産業高校の商業科設置が、開府400年の記念事業と歩調を合わせながら、みんなから喜ばれる高校を作ってほしい。

(委員)

最上地区の小中高の校長会の研修で、新庄神室産業高校の校長より講演いただき、最上地区の子を最上地区で育てるために、小学生と中学生の間に、地域の素晴らしさを知った子どもたちを高校に送り出すことの大切さを確認することができた。小中高連携して、地域を大事にしていく生徒の力をつけていきたいと思う。新高校を作り上げていくということは、最上地区の小中高の希望であり、高校と協力し作り上げていきたい。

(部会長)

小中高の校長会において、高校に対する期待の大きさを感じている。その期待に応えられるような学校づくりを、今後も進めていきたい。

(副部会長)

新庄北高校、新庄南高校ともに長い歴史の中において、地域で果たす役割は大きかった。最上地区の子を最上地区で育てるという視点を持ち、教育課程を含め他の

高校との違う魅力について、今後検討してほしい。文部科学省が示している普通教育を主とする新たな学科の設置を魅力の一つとすることが考えられる。校舎の改修については、校舎の老朽化などを踏まえ、新校舎建設に向けた議論も期待したい。また、この会で様々な視点から御意見をいただき、子どもたちを社会に送り出すために、何をすべきかを整理するよい機会になった。最上地区の子を大事に、最上地区で育てる新しい学校になるため、学校だけでなく、地域の皆様とベクトルを同じにして、同じ思いで、最上地区の子どもたちの未来に協働していければと思う。

(部会長)

産業高校の部会長という立場から、地域の経済状況や産業高校へ進学する中学生の動機を考えると、曲がり角であり何とかしないといけないと思っていた。その折、このように商業科を加えた産業高校の在り方を検討する機会に恵まれ、目指す方向が少しずつ見えてきたように感じている。高校生にとって産業は、単なる労働力から、地域をつくっていくという概念に変化している。地域をつくるやりがいを感じ、早いうちから子どもたちに目標を持ってもらうために、低学年から子どもたちに接しながら地域で育ていく必要がある。それに見合った魅力ある高校づくりへの期待も感じた。

(委員長)

お話いただいた内容については、これからの準備に反映させ、地域の方々や県民の期待に応えられるよう努力していく。